



関西よつ葉連絡会

2012年9月

018号

よつばつうしん

〒567-0827 大阪府茨木市稲葉町4-5よつ葉ビル4階 Tel.072-630-5610 Fax.072-630-5606
yotuba-renrakukai@luck.ocn.ne.jp http://www.yotuba.gr.jp/ 発行責任者：中川健二



6.17、福井市中央公園で集会後デモ。県内の反原発集会では過去最大規模の2200人が参加。



翌日の大飯原発起動が報じられるなかで開かれた「6.30 おおい集会」。発言者は小林圭二氏。



6月27日、関西電力株主総会会場前で。



関西電力本店前での抗議行動。子ども連れや若者の姿も目立つ。



原発いらない

7/16「さようなら原発 10万人集会」のメイン会場。右の写真5点も同集会から。

「再稼働反対」の聲が、全国に響き渡った夏でした。私たちも、この夏、再稼働に反対する多くの集会・講演会・上映会・学習会などに参加しました。よつ葉は反原発運動団体ではありませんが、設立当初から原発に反対してきました。『食べ物』は『生き物』という考えに立ち…(よつ葉生産者憲章)としてきた私たちは、『生き物』と相容れない原発・核に反対することを、食べものを扱う事業にとって不可欠な取り組みだと考えてきたからです。これからも会員や生産者のみなさまとともに、原発のない社会をめざして活動していきます。



メイン会場は木立の向こう側。場外まで立錫の余地もありませんでした。



デモは3コースに分かれて出発。写真は原宿コース。

呼びかけの一人、坂本龍一氏



各地で記録的な猛暑が続いた夏が過ぎようとしています。節電バテなどとしておられませんか？
夏前、政府は関電管内で15%の電力不足が起きると試算していました。ところが猛暑にもかかわらず、「でんき予報」は原発ゼロでも乗り切れる水準で推移。大飯原発を再稼働させるための過大な見積もりだったことがはつきりしました。
反省ということを知らない人たちが、再稼働を強行する権力を持ち続けていることにウンザリします。希望は、多くの人々が自分の言葉で反対の声をあげ続けていることでしょうか。
私たちは「生産・流通・消費のつながり」をとりもどす、と言ってきました。3者がおカネだけの関係に分断されるとき、まともな「食」はないと考えています。ところが、福島第一原発事故からは、さらに放射能汚染による分断という問題も重なってきました。これからは、私たちが積み上げてきた「つながり」を台無しにしかねない矛盾に直面することもあるでしょう。しかし、この葛藤の中で、生産者や会員のみならず、ともに学び、考え、議論していくより他に、放射能とたたかいたいながら分断を越える方法はないのだと思います。

福島の農民連は、事故の翌月、牛を連れて東京電力本社にデモをかけました。その後数次に及ぶ交渉では弁護士を介さず、東電の社員と直接話をしたそうです。そのとき彼らは「風評被害」という言葉を一切使わず、この実害の責任はすべて東電と国にあると主張しました。生産者として、消費との間に分断が持ち込まれることを拒否したのです。
権力者からの分断の持込(例えば瓦礫広域処理)に反対し、解決の道を探るとき、彼らのたたかいた方には、学ぶべきことがたくさんあると思います。本紙は、そうした課題を共有する生産・流通・消費の相互理解と議論の場でありたいと考えています。ご意見をお寄せください。(編集部・下村)

研修生募集
NPO法人 よつば農業塾
 あなたがつくる、
 あなたの『農』をお手伝い
 詳しくは390号配布の別チラシをご覧ください。
 お問い合わせ:TEL.072-734-1797(能勢農場内)

9月～11月
秋の会員紹介キャンペーン 実施中!
 本紙6面と今週配布の別チラシをご覧ください。
 お問い合わせ:各配送センター